

復活節第2主日 円山教会 集会祭儀 2024年4月7日

福音朗読 ヨハネ 20・19-31

その日、すなわち週の初めの日の夕方、弟子たちはユダヤ人を恐れて、自分たちのいる家の戸に鍵をかけていた。そこへ、イエスが来て真ん中に立ち、「あなたがたに平和があるように」と言われた。そう言って、手とわき腹とをお見せになった。弟子たちは、主を見て喜んだ。イエスは重ねて言われた。「あなたがたに平和があるように。父がわたしをお遣わしになったように、わたしもあなたがたを遣わす。」そう言うてから、彼らに息を吹きかけて言われた。「聖霊を受けなさい。だれの罪でも、あなたがたが赦せば、その罪は赦される。だれの罪でも、あなたがたが赦さなければ、赦されないまま残る。」

十二人の一人でディディモと呼ばれるトマスは、イエスが来られたとき、彼らと一緒にいなかった。そこで、ほかの弟子たちが、「わたしたちは主を見た」と言うと、トマスは言った。「あの方の手に釘の跡を見、この指を釘跡に入れてみなければ、また、この手を御わき腹に入れてみなければ、わたしは決して信じない。」さて八日の後、弟子たちはまた家の中におり、トマスも一緒にいた。戸にはみな鍵がかけてあったのに、イエスが来て真ん中に立ち、「あなたがたに平和があるように」と言われた。それから、トマスに言われた。「あなたの指をここに当てて、わたしの手を見なさい。また、あなたの手を伸ばし、わたしのわき腹に入れなさい。信じない者ではなく、信じる者になりなさい。」トマスは答えて、「わたしの主、わたしの神よ」と言った。イエスはトマスに言われた。「わたしを見たから信じたのか。見ないのに信じる人は、幸いである。」

このほかに、イエスは弟子たちの前で、多くのしるしをなさしたが、それはこの書物に書かれていない。これらのことが書かれたのは、あなたがたが、イエスは神の子メシアであると信じるためであり、また、信じてイエスの名により命を受けるためである。

おはようございます。3分間の分かち合いの奉仕をさせて頂く札幌聖心女子学院チャプレン、聖心会の田口でございます。4月初めに韓国の聖心からシスターオースンジャが加わり、学校は最後の学年度を始めます。いつもお世話になり、ありがとうございます。今月から集会祭儀が2回となりましたが、出張の時はおやすみさせていただくので、おります時は毎回分かち合いさせていただきます。といっても、浅いレベルでの分かち合いで申し訳ありません。

友人のインド人のシスターがインドにキリスト教をもたらしたのは、聖トマスだと言っていたのを思い出します。彼は、勇気あるひとだったのでしょう。ラザロが病気になったという知らせを受けて、イエスが危険を承知で旅立たれた時、「私たちも行って、先生と一緒に死のうではないか」と言ったのはトマスだったと書かれています。(ヨハネ 11:16) 誰よりも勇気ある弟子だったのでしょう。

だからこそ、イエスを殺した勢力を怖がって鍵をかけて閉じこもる、勇気のない仲間とは一緒にいなかったのでしょうか。でもそんな怖がっている弟子たちの方が、復活されたイエスにお会いできたのです。トマスは、臆病な仲間たちの方にイエスがあらわれたことが信じられません。

私たちも、自分がその場にいないとわかっている時に、家族や仲間が自分たちだけで話し合いをして何かを決めたり、素晴らしい体験をしたと聞いたら、心穏やかでいられないかもしれません。「なんで私のいない時に」とむくれた体験はだれにでもあることでしょう。私にもあります。ですが、トマスの想いはそれだけではなく、「なんで臆病者の皆の方に、イエスが出現されたのか」という気持ちがあったのではないかと思うのです。

けれど、これはイエスを信じるためにトマスが通らなければならなかった道なのかもしれません。ひとところに閉じこもって隠れているみんなと一緒にいても満たされないトマスは、自分の激しい想いをイエスに受けとめていただくことを無意識に願っていたのかもしれない。そうでなければ「自分の指をイエスの釘跡に入れ、また、自分の手をイエスのわき腹に入れる」などということを考えつくでしょうか。

トマスは、疑り深い人だったとか、理数系で見たことしか信じないとか、実証主義の科学的な考えを持っていたとか、色々言われてきました。しかし、私は、トマスがイエスに求めるものが他の弟子よりはるかに大きく激しかったのではないかと思います。

一週間後、イエスはついにトマスにあらわれ、彼の求めるすべてをご自分の傷で包もうとされました。激しく、また敏感なトマスの心は、イエスの大きな愛で包まれたことで、初めて満たされました。深く豊かな恵みを味わい、目は大きな喜びをもたらすイエスを見つめ、ただ「わたしの主、わたしの神よ」と信仰告白を繰り返します。トマスにはこの道しかなかったのです。

復活のイエスに直接自分のありのままをぶつけて、すべて受け入れられることを悟ったトマスはとてもラッキーですね。私たちはこうはいきません。でもイエスは「見ないで信じる人は幸い」とおっしゃいました。これは「見ないで信じなさい」という私たちへの命令でなく、「祈りの内にあなたに出逢う」というイエスの約束だと思うのです。

ですから、この箇所を黙想する私たちは、自分の心の奥の奥の想いを知り、それをありのまま、イエスにぶつけてもよいのです。そしてトマスに対してと同じように、ご自分の傷を差し出して大きな愛で包んでくださるイエスに出逢うのです。

私たちが心の中に抱えている激しく求めるものも、傷つきやすさもすべてを温かく包み、ご自分の傷を差し出して、癒してくださるイエスに祈りの内に出逢う時、「見ないで信じる人は幸い」と言われたことが実現するのでしょうか。イエスの約束が私たちの祈りの中に実現するのです。蘇られたイエスに、祈りの中で出逢いましょう。

Tôi hy vọng bạn có thể gặp Chúa Giêsu trong lời cầu nguyện. Cảm ơn bạn.

ありがとうございます。